

# 学校教育の構造と転換（その1）

## — 近代公教育の二面性とメリトクラシ —

浅野慎一『新版 現代日本社会の構造と転換』「第8章 学校教育の構造と転換」大学教育出版

### I. 学校教育の歴史的形成 — 近代公教育の二面性

近代的学校制度：18世紀～19世紀、西欧で成立。

封建制→近代資本主義：一般国民・民衆の子供達を対象とする近代的学校制度。

①児童労働の制限、児童の保護。（資本主義：児童労働分野の拡張）

②階級間格差の是正。（資本主義：資本家・労働者、階級格差の拡大）

「全国民の子供に平等に教育を受ける権利を保障」。

BUT 現実には多くの矛盾。

ex) 受験競争・学歴社会、「ブラック校則」・体罰・管理主義教育、学級崩壊、いじめ、不登校。

∴ ①近代資本主義：階級社会。資本家 & 労働者。管理—被管理。

封建的身分：家柄・出自で決定。

近代的階級：能力・努力で階級間移動（職業選択・居住地選択の自由）。

「家柄・出自に基づく弱肉強食」→「能力に基づく弱肉強食」。

∴ 近代資本主義社会：個々人の能力を検査、職業・社会的地位に割り振るシステムが不可欠。

=学校制度の「発明」。∴ 学歴社会・競争主義教育。

「おちこぼれ（おちこぼし）」=学校制度の存立基盤。（≠学校の「失敗」）。

②近代産業社会：能率的・効率的な工業生産。

封建社会：半自給自足的な農業生産。自然の制約。

近代産業社会：工業・市場経済・大量生産。“time is money”

労働者=定時的・効率的・規律的・勤勉（industry）・従順。

ex) チャップリン「モダン・タイムス」。

=学校制度の「発明」。時間的・空間的規律。

ex) 学年・学期・時間割、「一望監視」、教師の権威、同質性・能率。

規律・権威への服従、勤勉：「善／美」として身体化。

∴ 管理主義教育。

③近代「国民国家」。統一政府による徴税、徴兵、法律、軍隊、貨幣。

封建社会：地方・身分別。「同質的国民意識=危険思想」。

近代「国民国家」：「国民=想像の政治的共同体」の育成が不可欠。

=学校制度の「発明」。

ex) 「国語」「日本史」「(日本)地理」「公民」「道徳」。

標準語、設置基準・教員免許、国旗・国歌。

∴ 管理主義教育。

学校教育：1)すべての子供達に平等に学習・発達の権利を保障。（労働者・民衆の利益・要求）

2)近代資本主義・産業社会・国民国家を構築する装置。（資本家階級・国家権力の要請）

=競争主義・学歴社会、管理主義の根源。

### II. 学歴社会と競争主義

学歴社会：学歴が将来の職業階層・社会的地位に大きく影響。

「学歴社会は崩壊」？ NO！ 大卒と中・高卒、大学毎の就職先の差。学歴による収入格差。

有名幼稚園・小学校の「お受験」。乳児・胎児の「英才」教育。

私立中学受験の増加。BUT 少数派・「特殊」。

大多数の子供：①中学卒業時、高校進学、就職。 ②高校卒業時、大学・専門学校等への進学、就職。

大学：全国的に序列化された偏差値で細かくランク付け。

選別の基準＝学業成績の相対的順位。

公立：中学校まで、ほぼ同じ内容・水準の教育。

BUT 高校以降、教育内容・水準に格差。

①教科教育（特に大学受験科目）、進学指導・情報提供。

②生活価値規範。

1)厳格な校則。「不合理、辛いことに我慢できる人間」養成。

2)自主・自律・個性。「自主的・自発的に競争に参加、個性を磨き、勝ち残ろうとする人間」養成。

### Ⅲ. 学歴社会・競争主義教育の是非

肯定派：メリトクラシー (meritocracy) (能力主義・業績主義)。

義務教育段階まで、ほぼ平等に教育機会が保障。

∴ 学業成績に応じて、進学・将来の地位・職業が決まるのは正当・合理的。

家柄・出自・性別・人種等 (=生得的属性) に基づく差別は不当。

個人の能力・努力に基づく平等なフェアな競争の結果 (=獲得的業績) に基づく差別化は正当。

& 競争・能力向上 = 「進歩」・発展の原動力。社会にも有用。

競争の勝者・敗者：ともにメリトクラシーの論理で自己認識。近代社会の基本的前提。

批判・否定派

①学歴：人生の比較的早い段階・就学期の「業績」の一つ。

BUT 学歴社会：「学歴」が、その後の人生全体を決定。事実上の「属性」に転化。

∴ 学歴社会 ≠ 真のメリトクラシー (業績主義)。

→ 「学歴以外にすべての人を序列化しうる評価基準は？」

「評価基準の多様化。多様な能力・業績で評価されるべき」

＝一見、対立。BUT いずれもメリトクラシー自体は肯定。評価基準をめぐる論争。

②学歴 (& あらゆる業績) ≠ 純粋な個人の能力・努力の結果。

ex) 性別による学歴格差。出身家庭の経済水準 (文化資本) による学力・学歴格差。

性別・出身家庭 = 生得的属性。

メリトクラシー：「獲得的業績」と「生得的属性」を峻別。

BUT 「獲得的業績」は「生得的属性」の二分法・峻別は非現実的・欺瞞。

学校：性差・出身階級等の格差・差別を次世代に再生産・伝達。

メリトクラシー：不平等な現実を隠蔽する偽りの「自己責任」論。

学校：建前では階級間移動を促進、差別意識を払拭、平等社会の実現。

実際は、階級格差を世代的再生産、メリトクラシーの論理で差別を維持・存続、隠蔽。

③能力・業績によって人間を評価・序列化することは可能・妥当？ 「人間の価値 = 能力」？

能力的評価軸の多元化 = 差別・序列化の拡大。(≠平等)

能力・業績の評価 & 平等・人権の尊重の関係は？

障害者、高齢者、社会的「弱者」等の差別：不当。

「障害」≠「障害を受けとめて生きる人間としての障害者」。

能力・業績に矮小化されない人間の価値・尊厳とは？

その考察を欠くメリトクラシー = 差別の論理。

現代社会・学校教育で評価される「能力」・「業績」

＝近代社会 (資本主義・産業社会・国民国家) の維持・再生産に必要な能力に限定。

メリトクラシー：封建的身分制度を批判、近代資本主義的階級社会を正当化・矛盾の隠蔽。

BUT 近代社会の終焉、「ポスト・モダン」。(メリトクラシーへの疑問：社会変動・変革への萌芽)。

∴ 近代社会の矛盾・問題を直視・克服する人間の「能力」とは？

この考察を欠くメリトクラシーの是認・肯定：近代社会による「洗脳」、思考停止。